

令和6年度の活動報告と 令和7年度活動計画

令和7年度・定時総会開催 5月26日
朝日ビルディング13階
アッセンブリールーム

親睦・イベント委員会

<令和6年度活動報告>

- 美術鑑賞（兵庫県立美術館） 6/22
- 納涼会（オリエンタルホテル神戸） 8/30
- 日本シリーズ中継観戦＋懇親会（ポナトリータ） 10/30
- 新春賀詞交換会（itsu葉） 1/15

<令和7年度活動計画>

- 「神戸ストークス」公式戦観戦 4/21
- 懇親納涼会（大丸屋上） 9/12 中止
- 懇親会（オリエンタルホテル）11/7 予定
- 新春賀詞交歓会（運営補助）1月予定

環境委員会

<令和6年度活動報告>

- プランター維持管理契約 6/1更新
- 初夏クリーン作戦 6/13
- 秋季クリーン作戦 10/17
- 春季クリーン作戦 3/6
- 「飾花維持管理」採用会員増加働きかけ

<令和7年度活動計画>

- プランター維持管理契約 6/1更新
- 初夏クリーン作戦 6/12日
- 秋季クリーン作戦 10/16 予定
- 春季クリーン作戦 3/5 予定
- 「飾花維持管理」採用会員増加働きかけ

神戸旧居留地ビジョンプロジェクト

当協議会が30年前（阪神淡路大震災の年）に策定した「震災復興計画（ハード面中心）」では約8割が実現してきました。そこで今後10年、20年先を見据え、賑わいを創出するソフト面も含めたまちづくりの新たなビジョンを策定が必要と判断し、今年度6回の勉強会（ワークショップ形式）を実施し、ビジョンを策定する計画です。

第1回／7月29日、第2回／9月18日、
第3回／11月21日、第4回以降は開催日未定

防災・防犯委員会

<令和6年度活動報告>

- 地区防災計画策定の検討（毎月）
- 防災福祉コミュニティ代表者会議出席 5/12
- 市民救命士講習会 6/26
- 市民防災リーダー研修出席 9/8
- 旧居留地防災訓練（神戸朝日ビル防災訓練と合同） 11/7
- 帰宅困難者訓練 1/22
- 防災資機材の貸出実施

<令和7年度活動計画>

- 地区防災計画本編・マニュアル編の策定（毎月）
- 防災福祉コミュニティ代表者会議への参加 4/20
- 市民防災リーダー研修への参加 9/14
- 防犯講習会の実施 9/17
- 旧居留地防災訓練の実施 11/5 実施予定
- 神戸市帰宅困難訓練への参加 1月頃実施予定
- 会員企業への防災資機材

広報委員会

<令和6年度活動報告>

- 「居留地会議 No45」編集 8/1発行
- イベント等の写真撮影・記録
- 会員サイトの管理・運営

- 旧居留地オフィシャルサイトの管理・運営
- ▶はいからプロジェクト（情報発信事業）
- 武庫川女子大学インターンシップ受入
- 「プロムナードコンサート（居留地アペロ）」開催 10/2
- 「旧居留地 Swigin'Christmas」開催 12/7
- 「旧居留地 Yellow Giving」開催 3/8～23

<令和7年度活動計画>

- 広報誌「居留地会議」No46の発行
- イベント等の写真撮影・記録
- 会員向サイトの管理・運営
- 旧居留地オフィシャルサイトの管理・運営
- ▶はいからプロジェクト（情報発信事業）
- 武庫川女子大インターンシップ受入協力
- 「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」関連イベント協力

都心（まち）づくり委員会

<令和6年度活動報告>

- 地区内建設計画・店舗計画の聴取、助言
- 広告物対策
- 資源の発掘・整理
- 迷惑自転車対策
- 道路の整備の考え方
- 広告物ガイドライン改定の検討

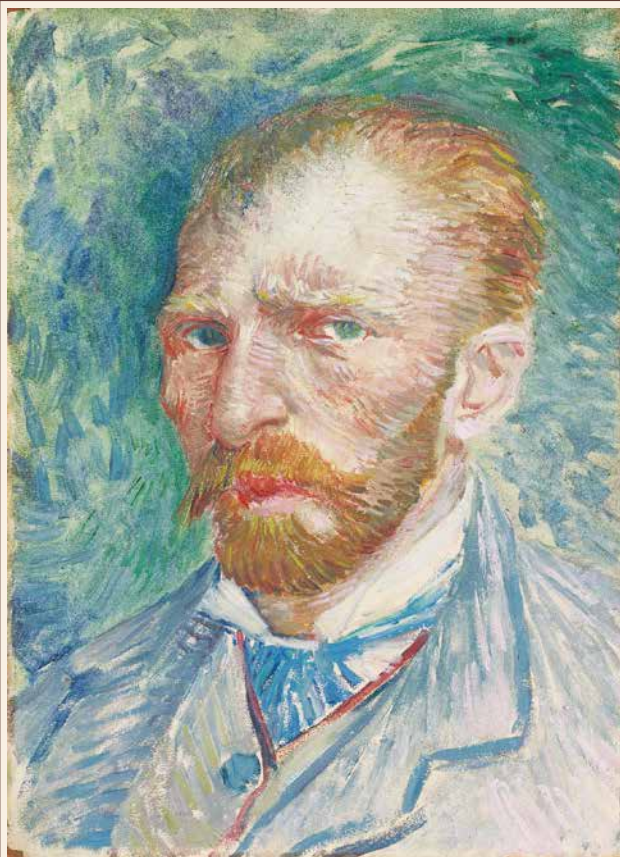
<令和7年度活動計画>

- 都心づくり委員会の開催（原則毎月）
- 地区内建設計画・店舗計画の聴取、助言
- 広告物対策
- 迷惑自転車対策
- 道路の整備の考え方
- 広告物ガイドライン改定の検討
- その他
- 旧居留地におけるこれからまちづくりについて



居留地会議

THE FORMER FOREIGN SETTLEMENT OF KOBE



上《自画像》1887年4-6月、油彩／厚紙、32.4×24cm
右《夜のカフェテラス（フォルム広場）》1888年9月16日頃、油彩／カンヴァス80.7×65.3cm
作品は全てクレラー＝ミュラー美術館
©Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands.
Photography by Rik Klein Gotink

大ゴッホ展と旧居留地の 新たな賑わい

この秋、オランダの天才画家フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-90）の生涯と名画の数々を紹介する「大ゴッホ展」が、旧居留地の神戸市立博物館で開幕します。

出展される絵画はゴッホ・コレクションで世界的に知られるクレラー＝ミュラー美術館（オランダ・ヘルダーラント州）の収蔵品で、9月20日からの第1期（2026年2月1日まで）では《夜のカフェテラス》など約60点を展示し、オランダ時代からバリ、南仏のアルルに至る画業前半を紹介します。

さらに2027年2月6日から始まる第2期（2027年5月30日まで）の展示作品は、69年ぶりの来日となる《アルルの跳ね橋》など



約40点で、アルル時代から末期までの創作活動に迫ります。

100点に及ぶゴッホ作品を国内で鑑賞できるのは1958年に東京国立博物館などで開かれた大規模展以来。会場にはモネやルノワールなど印象派の油彩画もお目見えします。

今年は阪神・淡路大震災から30年。困難に直面しながらも絵画への情熱を失わず、自らの作品に希望や愛、癒しの心を求め続けたゴッホの生きざまと名画の数々は、節目の年を迎えた私たちや神戸を訪れる人々に深い感銘を与えてくれるに違いありません。同展は2026年に東日本大震災から15年を迎える福島県、さらには東京へとバトンを渡す形で巡回開催されます。

新会員募集

入会のお問い合わせ、お申し込みは、
050-1782-7910 大丸神戸店（事務局／野島・松尾）まで
078-333-4111 ノザワ（事務局／尾寺）まで
（都合により不在の場合があります）

旧居留地連絡協議会

神戸市中央区播磨町 30 大丸カーポート 7 階
kobe@kyoryuchi-club.com



「大ゴッホ展」前にオランダを訪問 ゆかりの地を訪ね、ファン・ゴッホの 原風景にふれる

大ゴッホ展の開幕に先立ち、主催団体の担当者が5月にオランダを訪問し、クレラー＝ミュラー美術館をはじめ、ゴッホが生まれ育った町ズンデルト、画廊職員として働いたハーグ、農民絵画に打ち込んだニューネンなど、ゆかりの地を巡りました。参加した神戸市立博物館の塚原見学芸員に訪問先の様子や今展の見どころをお聞きました。

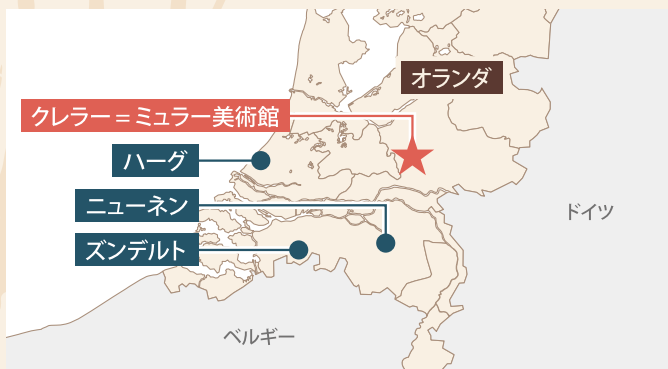
クレラー＝ミュラー美術館はアムステルダムから東へ約80キロの国立公園内にあり「周辺の深い森の様子が六甲山のたたずまいに似ています。この美術館が所蔵するゴッホ作品の多くが神戸で鑑賞できるのは画期的なことです」と感慨深げ。ゆかりの地を巡った印象は「風車や柳、跳ね橋など、フランス時代のゴッホ作品にしばしば描かれる画題の風景を今も目にすることができます。ゴッホの原風景は、オランダの自然にあるとの思いを強くしました」と話しています。

ゴッホには、耳切り事件など精神的安定を欠いた逸話がよく語られます。塚原学芸員は「自分は社会に受け入れられない、と思ひ込み、他人と良好な人間関係を築けなかった」と推測。「本当は頭が良く、画廊勤務時代はオランダ語、英語、フランス語を操り、19世紀の美術史が書けるほどの知識と情報量を持っていました」とゴッホの本来の姿を語ってくれました。

「ただ、その後、何かショックな出来事があったのでしょうか、周辺とうまく行かなくなった。彼が絵画に没頭するようになったのは、売ろうとか、社会的に認められようという意識でなく、自らを『救済』するためだったように思えます」

最後に、大ゴッホ展の見どころを聞いてみたところ「技量を磨く中で、作品の色彩やタッチが変化していくさまを見てほしい。絵を描き始めたオランダ時代はレンブラント以来のオランダ絵画の影響を受けて暗い絵が目立ちますが、パリに移ってからは色彩豊かな絵に変化していきます。その一因には浮世絵の影響もあるのです」と塚原学芸員。第1期に来日する〈夜のカフェテラス〉は、明るい色彩と力強いタッチで仕上げられた代表作の一つで「その構図は、江戸の浮世絵師・歌川広重が描いた江戸の夜景を意識していたかも知れない」と教えてくれました。

その〈夜のカフェテラス〉ですが、「クレラー＝ミュラー美術館で実物を目にし、星空の色彩の鮮やかさに感銘を受けました。他の作品も含めて多くの方に本物のゴッホ作品に触れ、その感動を味わってほしい」と話しています。



ズンデルトでは生家跡などを訪問



ニューネンに残る当時の住まい

Gogh Night

旧居留地ゴッホナイト イベントマップ

10/3~25
fri sat

旧居留地を中心に、街中でイベント開催！

「阪神・淡路大震災30年 大ゴッホ展 夜のカフェテラス」の開催に合わせ、10月の週末、「カフェテラスで楽しむアートと音楽」をテーマに、様々なイベントを開催します。光のプロジェクションや、「夜のカフェテラス」をテーマにしたライトアップ、旧居留地や三宮中央通りの飲食店でコラボメニューも楽しめます。



大丸神戸店

10/11 「光のライブペインティング」

10月の毎週金・土曜日にオープンカフェを設置 ※1

明石町筋

10/3~ 「旧居留地イルミネーション」を実施

大ゴッホ展にあわせて旧居留地でも関連イベントが盛りだくさん

見どころがたくさんの「大ゴッホ展」、この賑わいを博物館だけでなく旧居留地全体で盛り上げ、博物館に来られた多くの方々に旧居留地でゆっくり滞在していただく仕掛けづくりが重要です。

大ゴッホ展の開催に伴う経済波及効果はどれほどなのか。みたと銀行系のシンクタンク「ひょうご経済研究所」の試算によると、第1期（2025年9月20日～2026年2月1日、計113日間）に限定して来場者を仮に30万人とし、神戸市観光動向調査などの資料を参考に日帰り客24万人、宿泊客6万人と想定した場合、経済波及総額は52億6000万円に達するのではないか、とのこと。

内訳は、入場料や交通、宿泊、飲食費、買い物などの直接効果が35億4200万円と全体の7割近くを占め、同研究所は「旧居留地のエリア全体で、飲食や買い物などの消費額を大きくする工夫をすれば、地域への経済波及効果はさらに高まるだろう」と話しています。

三井住友銀行前広場

10/3・11 「ナイトテラス・ライブペインティング」

10/4・25 「ジャズライブ」「光のライブペインティング」

10月の毎週金・土曜日にオープンカフェを設置 ※1



オリエンタルホテル

10月の毎週金・土曜日にオープンカフェを設置 ※1



東遊園地

10/10 「NIGHT PICNIC」とのコラボレーション企画「PARK TALK」を開催



クリエイト神戸ビル

10/18 「光のライブペインティング」

10月の毎週金・土曜日にオープンカフェを設置 ※1



- 日程は現時点での予定です。
- この他にも飲食店等に協力を呼びかけ、コラボレーションメニューの販売や店内装飾等を行っています。
- 詳細はホームページをご覧ください。

<※1>

10/3(金)、4(土)、10(金)、11(土)、17(金)、18(土)、24(金)、25(土)

